

助動詞「つ・ぬ」確認テスト（完了・強意） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 答え：接続助詞（反復・継続の「つつ」）。解説：「つつ」は「～しながら」「～し続けて」という意味の接続助詞で、完了の助動詞「つ」とは別の語です。形が似ているのでひっかけに使われます。「取りつつ」は「(竹を)取り取りして／取り続けて」の意味になります。

問2 答え：(1) 完了の助動詞「つ」の連体形。(2) 連体形。解説：「つ」は「て・て・つ・つる・つれ・てよ」と活用します。「つる」は連体形で、すぐ後ろの体言「方(かた)」に続いている(修飾している)ので、活用形は連体形だと分かります。

問3 答え：完了。解説：「ほととぎすが鳴いた方角」という意味で、「鳴いてしまった・鳴いた」と動作が終わったことを表しているのが完了です。後ろに推量の語が続いていないので強意ではありません。

問4 答え：(現代語訳) ほととぎすが鳴いた方角をながめると。解説：「つる」を完了「～た」と訳して「鳴いた方角」とします。「ながむれば」は「ながめると」。

問5 答え：完了の助動詞「つ」の連体形。意味は完了。解説：「かねて思ひつるままの顔」で「前もって(心の中で)思っていたとおりの顔」の意味。後ろの体言「まま」に続くので連体形、推量の語がないので意味は完了です。

問6 答え：(現代語訳) たいそうかわいらしい様子ですわっていた。解説：「うつくしうて」は「かわいらしくて」、「ゐたり」は「すわっていた」。ここはかぐや姫が竹の中にすわっていた場面です。

問7 答え：(1) 完了の助動詞「ぬ」の連用形。(2) (現代語訳) よそへ隠れてしまった。解説：「ぬ」は「な・に・ぬ・ぬる・ぬれ・ぬ」と活用し、「に」は連用形です。直後に過去の助動詞「けり」が続いて「にけり」の形になっています。「隠れにけり」で「(すっかり)隠れてしまった」という完了の意味になります。

問8 答え：②・④。解説：完了の助動詞「つ」が使われているのは、②「鳴きつる」と④「思ひつる」です(①の「つつ」は接続助詞、③の「つ」は格助詞なので除きます)。

問9 答え：(1) 完了の助動詞「ぬ」(の終止形)。(2) 終止形。解説：すぐ上の「来」はカ変動詞「来(く)」の連用形「き」です。連用形に接続しているのが完了の「ぬ」。下に「と」(引用)が続き言い切りの形なので終止形です。「秋来ぬと」は「秋が来た」との意味になります。

問10 答え：(1) 打消の助動詞「ず」の已然形「ね」。理由：すぐ上の「見え」は「見ゆ」の未然形であり、未然形に接続しているのが打消「ず」である。下に「ども」(逆接の接続助詞、已然形に付く)が続くので已然形。「見えねども」で「(目には)はつきり見えないけれど」の意味。(2) 完了の助動詞「ぬ」の連体形。解説：「おどろかれぬる」は、すぐ上の「おどろか+れ」が連用形なので完了の「ぬ」。文末を「ぞ」が結ぶ係り結びで連体形「ぬる」になっています(「ぞ…ぬる」)。「はっと気づいてしまった」の意味です。

問11 答え：連用形。解説：完了の助動詞「つ」は連用形に接続します(例：「行き+つ」など)。なお「奥つかた」の「つ」は古い格助詞で「奥の方」の意味であり、助動詞ではありません。

問12 答え：完了の助動詞「ぬ」の終止形。(現代語訳) ついには減んでしまった。解説：すぐ上の「ほろび」は「ほろぶ」の連用形なので完了の「ぬ」。文がここで言い切られているので終止形です。「ぬ」は終止形と連体形(ぬる)を間違えやすいので注意しましょう。

問13 答え：打消の助動詞「ず」の連体形「ぬ」。理由：「ぬ」のすぐ上の「見え」は動詞「見ゆ」の未然形である。完了の「ぬ」は連用形に接続するが、打消の「ず」は未然形に接続する。「見え」は未然形なので、この「ぬ」は打消「ず」の連体形である。また意味も「都では見かけない鳥なので」と打消で文意が通り、完了では通らない。解説：「上が未然形なら打消、連用形なら完了」が決め手です。

問14 答え：完了の「ぬ」は連用形に接続し、打消の「ず」は未然形に接続する。つまり、すぐ上の語が連用形なら完了「ぬ」、未然形なら打消「ず」と見分けられる。解説：これが一番確実な決め手です。たとえば「死+ぬ」なら「死に(連用形)」だから完了、「死+ぬ(鳥)」のもとが「死な(未然形)」なら打消、というように、上の活用形を見ます。多くの受験生がつまずく超頻出ポイントです。

問15 答え：(現代語訳) 都では見かけない鳥なので。解説：「見えぬ」は「見えない・見かけない」。「なれ」は断定「なり」の已然形、「ば」で「～ので」と理由を表します。

問16 答え：連用形。解説：完了の助動詞「ぬ」も連用形に接続します(例：「散り+ぬ」など)。「つ」「ぬ」はどちらも連用形接続と覚えましょう。これに対し打消「ず」は未然形接続なので、ここで区別できます。

問17 答え：て・て・つ・つる・つれ・てよ。解説：「つ」は下二段型に活用します。順に、未然形「て」、連用形「て」、終止形「つ」、連体形「つる」、已然形「つれ」、命令形「てよ」です。

問18 答え：な・に・ぬ・ぬる・ぬれ・ね。解説：「ぬ」はナ変型に活用します。順に、未然形「な」、連用形「に」、終止形「ぬ」、連体形「ぬる」、已然形「ぬれ」、命令形「ね」です。

問19 答え：意味は強意(確述)+推量で「きっと～だろう」。(現代語訳) きっと花が咲くだろう。解説：「な(ぬの未然形)+む(推量)」のように、推量の語の直前に来た「な」は完了ではなく「きっと～」という強意になります。「花咲きなむ」は「きっと花が咲くだろう」です。

問20 答え：強意(確述)。解説：「つ」「ぬ」は、後ろに推量の助動詞「む・べし・らむ」などが続くと、完了ではなく「きっと～・必ず～」という強意(確述)の意味になります。

問21 答え：⑥・⑧・⑪。解説：完了の助動詞「ぬ」が使われているのは、⑥「隠れにけり」(連用形「に」)、⑧「秋来ぬと」(終止形「ぬ」)・「おどろかれぬる」(連体形「ぬる」)、⑪「ほろびぬ」(終止形「ぬ」)です。⑦「思はざりし」の「ざり」は打消「ず」、⑧「見えねども」の「ね」、⑩「絶えずして」、⑫「見えぬ・見知らず」はいずれも打消「ず」なので含みません。

問22 答え：(過去の助動詞)「けり」(または「き」)。解説：完了の「に」の直後には過去の「けり・き」(～にけり・～にき)や接続助詞「て」(～にて)が来やすいです(例文⑥「隠れにけり」)。一方、断定「なり」の連用形「に」の直後には「あり」「して」などが来ます。直後の語で見分けます。

問23 答え：「つ」は、人が意図的に行う(意志的・人為的な)動作に付きやすい。「ぬ」は、自然に・ひとりで起こる動作に付きやすい。解説：例えば「(自分の意志で)書きつ」のように意図的な動作には「つ」、「(自然に)散りぬ」「明けぬ」のように自然現象には「ぬ」が付く傾向があります。

問24 答え：後ろに推量の助動詞（む・べし・らむ・じ等）が続いたときに強意になる。具体的な語形としては「てむ」「なむ」「つべし」「ぬべし」などがあり、「きっと～だろう・必ず～できるだろう」の意味になる。解説：「てむ・なむ・つべし・ぬべし」を見たら「強意+推量」と反応できるようにしておきましょう。